

備前守參着之節布衣以上は玄關え 御目見以上之分は式臺迄爲出迎罷出

一備前守見分之節寺社奉行始役々相從ふ

一御本社向廻廊其外 奥院迄見分相濟、大樂院に於而休息有之 御目見以上えは掛合差出 御目見以下えは強飯差出之

一御脇堂社向并仁王門新道口、長坂口大番所張番所迄、追々見分相濟而備前守并役々退散

御法會に付御假物御取建箇所

一奥院唐銅鑄拔御門内 御寶塔廻り御假物

御同所 御供所并廊下

御同所

一御拜殿より唐銅鑄拔御門迄御廊下

御同所

一御拜殿左右御張出

御同所

一出家番所

御同所

一坂下御門より 奥院 御拜殿迄御廊下

御本社

一御拜殿左右御張出、御門跡方御待合所共

一上假御供所并廊下

一御唐門内被物置所、御納戸居所共

一御徒番所二ヶ所

一東西廻廊附卸庇

一御後廻廊附卸庇、御賄小屋二ヶ所

一執當部屋并附卸庇

一御別當社家用部屋

一樂人詰所

一舞臺太鼓覆

一陽明御門より御唐門迄御廊下

一陽明御門左右附卸庇

一鐘樓脇御廊下

一鐘樓後老中、若年寄、御側衆部屋

一同所高家、寺社奉行、大目付、御勘定奉行、御作事奉行、御目付、御勘定吟味役、御右筆御勘定部屋并茶所

一同所石玉垣内日光奉行、小十人頭、御徒頭、御醫師、御作事方、日光方詰所

一中段石垣より陽明御門迄御廊下

一御本地堂前御廊下

一御同所廻り假屋根

- 一 太鼓覆舞臺同廊下
- 一 樂人詰所同樂屋
- 一 御賄小屋并番所共
- 一 輪藏廻り御張出同廊下
- 一 番所
- 一 御水屋渡廊下
- 一 幄
- 一 内番所繼足
- 一 假神廐
- 一 西淨脇物置并中神庫後物置
- 一 仁王御門より御中段石柵迄御廊下
- 一 御徒部屋
- 一 仁王御門前玄關
- 一 同續仁王御門迄御廊下
- 一 御供廊下玄關、小十人、御徒目付、御小人目付、部屋、其外小用所共
- 一 御用溜所

- 一 御門跡御休息所玄關共
- 一 腰掛供部屋
- 一 神人番所
- 一 御宮諸道具置所
- 一 御別所脇門番所
- 一 御假殿脇門番所
- 一 仁王御門前番所并傘置所
- 一 新宮馬場通門番所
- 一 大番所
- 一 本坊内御門跡方公家衆棧敷
- 一 御殿地内 御名代武家棧敷
- 一 御同所外大番所并張番所五ヶ所
- 一 御旅所舞臺并樂人詰所
- 一 右之通御取建有之

一 梶井御門跡今朝被到着
御使備前守 高家差添
 二種一荷 青蓮院 御門跡

同 斷

同 同 梶井御門跡

右被到着に付被遣之

但 青蓮院御門跡は一昨日被到着候得共、備前守到着以前に付及今日
一今日より山中勤番建之

同 月 六 日

一於 御宮萬部御經之習禮有之、日光御門跡、青蓮院御門跡、梶井御門跡御出席 但 諸役人出席無之
一今日より諸役人え朝夕御賄被下之

同 月 七 日

一御法事初日に付、辰上刻備前守上 社、高家、寺社奉行、大目付、御勘定奉行、御作事奉行、日光奉行、御目付、御徒頭、小十人頭、御勘定吟味役、其外且勤番大名等先達而 御宮え相揃罷在
一辰下刻萬部讀經開闢、備前守、寺社奉行、大目付、御勘定奉行、御作事奉行、日光奉行各東之假張順々着座、日光奉行は替々相詰 但 日光奉行支配組頭一人末席に相詰
一東西之假張に御目付一人充、階下東西に御目付一人充相詰
一南之假張に勤番之面々并御門跡御馳走人相詰
一高家三人南之假張に罷在
一御徒頭二人御唐門外左右に罷在、御徒は御唐門外左右假番所に勤仕
一小十人頭組共、南之假張落縁に並居

一御醫師西之假張に伺公

一御勘定吟味役、奥御右筆組頭は東之假張御目付之次に罷在、奥御右筆二人は御目付之後落縁に、表御右筆三人は西之假張衆僧之後に罷在

一御宮階下より仁王門内迄、筵道地布敷之

一證誠御門主、社家、門通銅御庫東之方假玄關より扣所え御越

一御導師御門跡行列に而御上 社、此節備前守は切目縁迄、高家始役々は御濱廊下迄爲御出迎罷出

一御經一卷畢而御導師御退出、備前守始最前御出迎之席迄送之

一御經二卷目之内、寺社奉行阿部備中守、御作事奉行村垣淡路守、御目付初鹿野傳右衛門巡堂、執當年行事相

從ふ

一御經三卷目之内御目付初鹿野傳右衛門先導に而備前守巡堂、寺社奉行松平右京亮、大目付伊藤河内守、御勘定奉行柳生主膳正、奥御右筆組頭秋山内記、奥御右筆青木忠左衛門、布施藏之丞相從ふ、西廻廊より後廻廊通、東廻廊より陽明御門え出、直に休息所え相越

一勤番之外一同休息所え引退

一御經四卷目畢頃、備前守始如最前出席

一四卷目畢而中休有之、備前守始一同扣所え退く

一御經中休之内、衆僧え強飯被下之

一中休畢而備前守始如最前出席

一御經五卷目之内拜禮有之

△侍從

備前守

△同

高家

△四品

奧平大膳大夫

右一人充 御拜殿二疊目にて拜禮 但 大膳大夫は一疊目にて拜禮

寺社奉行

勤番

火祭禮之奉行兼

御馳走人

大目付

御勘定奉行

御作事奉行

日光奉行

右二人充御縁にて拜禮

御目付

御徒頭

小十人頭

御勘定吟味役

奥御右筆組頭

右三人充御縁にて拜禮

奥御右筆

表御右筆

御醫師

右二人充御縁にて拜禮 但 布衣以上は毎日、布衣以下は御法會中一度拜禮

一拜禮之節、備前守は假張通縁上より直に殿内に入拜禮、畢而何も拜禮之内縁上左之方假張に着座、高家始假張東階下え下り渡廊下に集り、備前守着座有而順々階を登り拜禮、階を下り夫より假張に復座、寺社奉行は各拜禮之内備前守後に罷在

一右相濟而備前守始休息所え引退

一御經六卷目畢頃備前守出席、如最前着座

一寺社奉行松平右京亮、大目付伊藤河内守出席、掛巡堂

一御經八卷目始頃、三御門主社家門通り銅御庫東之方假支關より御出仕、八之卷一卷御讀誦有之御退去

一御經畢而日光御門跡 御拜殿之内御待合所え御越、南之方障子執當開之、備前守え御挨拶有之、此節詰合之面々も一同御待合所之方え向、居付候儘平伏す

一右相濟而備前守休息所え退去之節、一同御濱廊下出迎之場所迄送之、一同休息所え引退備前守退出、相濟而諸役人退散

一未上刻御經相濟

一今日萬部讀經開闢之儀、備前守、寺社奉行、大目付、御勘定奉行連名之注進狀江戸表え以次飛脚差立之

一備前守退出、掛梶井御門跡、青蓮院御門跡宿坊爲見廻相越、夫より御經開闢之御祝儀、并明後九日御招之爲御請、本坊え罷越

一御門跡方并備前守退散、相濟而山中勤番より立番之人數并御徒頭、小十人頭勤番引揚
一諸向退散以後 御宮内扣所御目付方、御代官、御勘定方、日光方千人頭兩人立合見廻り、火所鎮方をも見届有之

一御經開闢之爲御祝儀、備前守宿坊え在山之面々一同熨斗目半袴着用相越

同月八日

一御法會二日目都而如昨日

一御經二卷目之内巡堂、寺社奉行松平右京亮、御作事奉行村垣淡路守、日光奉行本多淡路守、御目付高井山城守

一御經三卷目之内、御目付高井山城守先導に而備前守巡堂、寺社奉行阿部備中守、大目付伊藤河内守、御勘定

奉行柳生主膳正、奥御右筆組頭秋山内記、奥御右筆青木忠左衛門、布施藏之丞相從ふ

一御經五卷目之内、布衣以上之面々拜禮如昨日

一御經六卷目之内巡堂、寺社奉行阿部備中守、大目付伊藤河内守

一未上刻御經相濟

一備前守退出、掛本坊 御導場 殿有院様 俊明院様 御牌前參拜、寺社奉行、日光奉行、同支配組頭相越

同月九日

一御法會三日目都而初日之通

一御經二卷目之内巡堂、寺社奉行阿部備中守、御作事奉行村垣淡路守、日光奉行小嶋安藝守、御目付荒川常次郎

一御經三卷目之内、御目付荒川常次郎先導に而備前守巡堂、寺社奉行松平右京亮、大目付伊藤河内守、御勘定

奉行柳生主膳正、奥御右筆組頭秋山内記、奥御右筆青木忠左衛門、布施藏之丞相從ふ

一御經五卷目之内、布衣以上之面々拜禮如昨日

一御經六卷目之内巡堂、寺社奉行松平右京亮、大目付伊藤河内守

一未上刻御經相濟、備前守始諸役人退座

但 今日御經過寺院拜禮有之に付、何れも休息所に扣罷在

一西本願寺代僧專光寺、金地院、京東福壽寺中雨明院、何も陽明御門外え相揃、此節備前守始出席

一備前守 御拜殿東之方柱際着座、寺社奉行御縁左右、大目付、御目付階下東西に着座

西本願寺代僧 專光 寺

右御縁にて拜禮

金地院

右 御拜殿二疊目にて拜禮

京東福壽寺中 南 明 院

右御縁にて拜禮、相濟而日光御門跡御退去、備前守始諸役人休息所え退去

一今夕備前守始在山之面々御招請に付、何れも服紗給、麻上下着用本坊え相越

一於席々備前守始諸役人、其外末々迄御饗應有之

一六時頃御饗應相濟、備前守始順々退散、門外より立歸御禮申述之

同月十日

一上使植村駿河守今朝參着

一御法會四日目都而初日之通

一 御經二卷目之内巡堂、寺社奉行松平右京亮、御作事奉行村垣淡路守、日光奉行本多淡路守、御目付富永三郎右衛門、御勘定吟味役篠山十兵衛

一 御經三卷目之内、御目付富永三郎右衛門先導にて備前守巡堂、寺社奉行阿部備中守、大目付伊藤河内守、御勘定奉行柳生主膳正、奥御右筆秋山内記、奥御右筆青木忠左衛門、布施藏之丞相從

一 御經五卷目之内、布衣以上之面々拜禮如昨日

一 御經六卷目之内巡堂、寺社奉行阿部備中守、大目付伊藤河内守

一 御經中休之内、於休息所大目付、御目付え左之書付備前守渡之

阿部 備中守 松平 右京亮 伊藤 河内守

柳生 主膳正 村垣 淡路守 小嶋 安藝守

本多 淡路守

中條 河内守 戸田 備後守 大澤 右京大夫

奥平 大膳大夫 土岐 山城守 朽木 土佐守

鳥居 丹波守 稻垣 信濃守 毛利 甲斐守

初鹿野 傳右衛門 高井 山城守 荒川 常次郎

富永 三郎右衛門 長井 五右衛門 長坂 血鎗九郎

駒井 但馬守 篠山 十兵衛 秋山 内記

右明朝上意相達候に付本坊え相越候事

四月十日

一 未上刻御經相濟

一 御經相濟候以後、植村駿河守 御宮え自拜、御太刀馬代獻備之、畢而 大猷院様御靈屋え參拜

一 備前守始諸役人一同退散

一 今朝備前守宿坊え爲 上使植村駿河守相越 御懇之 上意之趣申達之、爲御尋拜領物御品有之不知

一 備前守蒙 御懇之 上意、且拜領物被 仰付候爲御禮植村駿河守宿坊え相越

一 公方様 大納言様爲伺御機嫌、在山布衣以上之面々植村駿河守宿坊え罷出

同月十一日

一 六條前大納言、山科前大納言今朝到着、高家出迎

一 御法會中日に付、本坊え爲 御使植村駿河守長斗目備前守半相越、高家、寺社奉行、勤番、火之番、御馳

走人、大目付、御勘定奉行、御作事奉行、日光奉行、御目付、御徒頭、小十人頭、御勘定吟味役、奥御右筆

組頭何も斗目 最前相揃罷在

一 執當案内而駿河守小座敷え相通、無程日光御門跡御出座、於對面所御對面 上意之趣駿河守述之、爲御尋枝

柿一箱、御檜重一組被遣之、御門跡御返答有之、駿河守承之退座

一 御門跡より駿河守え御饗應有之、寺社奉行、大目付、御勘定奉行、日光奉行、御目付御相伴、畢而

寺社奉行 大目付 御勘定奉行

御作事奉行 日光奉行

高家 勤番 火之番

御馳走人

御目付 御徒頭 小十人頭

御勘定吟味役 奥御右筆組頭

右御法會中、日々相詰太儀に被 思召候段上意之趣三度に植村駿河守申達之

一六條前大納言、山科前大納言 上意之趣本坊於書院上之間、植村駿河守演達之

一布衣以上之面々蒙 上意候爲御禮、備前守、植村駿河守宿坊え相越

枝柿一箱
御檜重一組

青蓮院御門跡

同 斷

梶井御門跡

右御法會中日に付、爲御尋被遣之 御使植村駿河守、備前守同道勤之

一御法會中日に付、辰上刻備前守始諸役人上 社、休息所え相揃

一辰下刻備前守始一同御法會席え着座、其後 上使植村駿河守上 社、此節諸役人御濱廊下え出迎、備前守は

切目縁東之方迄出迎、駿河守着座、備前守始復座

一駿河守着座以前、御導師御門跡御上 社

一御經一卷畢而駿河守 御拜殿御闕之内一疊目にて拜禮、此節備前守御縁東之方、御目付御濱廊下に罷在、相

濟而備前守、駿河守復座

一御經二卷目之内巡堂、寺社奉行阿部備中守、御作事奉行村垣淡路守、日光奉行小嶋安藝守、御目付初鹿野傳

右衛門、御勘定吟味役篠山十兵衛

一御經三卷目之内植村駿河守退散、掛御目付初鹿野傳右衛門先導にて備前守、駿河守巡堂、寺社奉行阿部備中

守、大目付伊藤河内守、御勘定奉行柳生主膳正、奥御右筆組頭秋山内記、奥御右筆青木忠左衛門、布施藏之

丞相從ふ

一巡堂相濟而駿河守は休息所え引退、備前守始諸役人は復座、三卷目相濟而一同休息所え引退

一御經四卷目畢頃備前守御法會席着座、植村駿河守は休息所より直に退出

一御經四卷目畢而中休如昨日

一御經五卷目之内、布衣以上之面々拜禮如昨日、相濟而

△布衣御代官
大貫 治 右衛門

右御縁にて拜禮

御勘定組頭二人 御代官二人 漆奉行

御勘定吟味方改役 御勘定三人 御大工頭

御作事下奉行

右二三人充御縁にて拜禮

一御經六卷目之内巡堂、寺社奉行松平右京亮、大目付伊藤河内守
 一未上刻御經相濟、備前守始諸役人退出
 一御法會中日に付、備前守、寺社奉行、大目付、御勘定奉行連名之注進狀江戸表え以次飛脚差立之
 一植村駿河守明朝出立歸府に付、爲暇乞宿坊え備前守相越、諸役人も一同相越

同月十二日

一御法會六日目都而初日之通

一御經二卷目之内巡堂、寺社奉行松平右京亮、御作事奉行村垣淡路守、日光奉行本多淡路守、御目付高井山城守、御勘定吟味役篠山十兵衛

一御經三卷目之内、御目付高井山城守先導にて備前守巡堂、寺社奉行阿部備中守、大目付伊藤河内守、御勘定奉行柳生主膳正、奥御右筆組頭秋山内記、奥御右筆青木忠左衛門、布施藏之丞相從ふ

一御經五卷目之内、布衣以上之面々拜禮、畢而

御納戸組頭 一人

御納戸 四人

小十人組頭 二人

小 十人 十人

右三三人充御縁に而拜禮

一御經六卷目之内巡堂、寺社奉行阿部備中守、大目付伊藤河内守

一未上刻御經相濟、備前守始諸役人休息所え引退

一今日 奥院 御拜殿に於而御寶物拜見 御假殿 御靈屋向見分に付、備前守服紗袷麻上下着用相越、寺社奉行其外諸役人も相越

一御寶物拜見之席え寺社奉行、大目付、御勘定奉行、御作事奉行、日光奉行、御目付、御勘定吟味役、奥御右筆組頭、奥御右筆之外諸支配向差出間敷旨、向々え可申達様大目付、御目付え備前守達之

一御宮御寶物拜見相濟 御假殿見分、夫より 御本社 御拜殿其外見分相濟而本坊御導場 惇信院様御牌前拜禮、夫より 御本殿向 奥院迄見分相濟、龍光院客殿に而御寶物拜見、畢而一同退散

同月十三日

一御法會七日目都而初日之通

一御經二卷目之内巡堂、寺社奉行阿部備中守、御作事奉行村垣淡路守、日光奉行小嶋安藝守、御目付荒川常次郎、御勘定吟味役篠山十兵衛

一御經三卷目之内、御目付荒川常次郎先導に而備前守巡堂、寺社奉行松平右京亮、大目付伊藤河内守、御勘定奉行柳生主膳正、奥御右筆組頭秋山内記、奥御右筆青木忠左衛門、布施藏之丞相從ふ

一御經五卷目之内、布衣以上之面々拜禮、畢而

御勘定格

日光奉行手附出役

藤野茂兵衛

日光奉行支配吟味役

山口新左衛門

在山

千人 頭 二人

日光奉行支配組頭 二人

徳川禮典附録 卷十三

右二三人充御縁に而拜禮

一御經六卷目之内巡堂、寺社奉行松平右京亮、大目付伊藤河内守

一未上刻御經相濟

一寂光寺、大日堂、含滿ヶ淵邊巡見として備前守相越、諸役人并支配向共最前寂光寺迄出張罷在、何も野袴馬乘袴等着用

一寂光寺堂社向巡見、夫より久次郎村より大日堂え相越、同所にて休息有之而備前守始歸坊

但 含滿ヶ淵えは及日暮候故不相越

同月十四日

一御法會八日目都而初日之通

一御經二卷目之内巡堂、寺社奉行松平右京亮、日光奉行本多淡路守、御目付富永三郎右衛門、御勘定吟味役篠山十兵衛

但 御作事奉行村垣淡路守病氣に付上 社無之

一御經三卷目之内、御目付富永三郎右衛門先導に而備前守巡堂、寺社奉行阿部備中守、大目付伊藤河内守、御勘定奉行柳生主膳正、奥御右筆組頭秋山内記、奥御右筆青木忠左衛門、布施藏之丞相從ふ

一御經五卷目之内、布衣以上之面々拜禮

一御經六卷目之内巡堂、寺社奉行阿部備中守、大目付伊藤河内守

一未上刻御經相濟、備前守始諸役人退座

一本坊御殿地兩棧敷并御祭禮道、且 御旅所爲見分備前守服紗袷 麻上下相越、其外寺社奉行二人、大目付、御勘定奉行、日光奉行一人、御目付四人、右支配向并奥御右筆組頭、奥御右筆、表坊主共罷越、見分相濟而一旦歸坊

一夕刻左之箇所爲巡見備前守羽織袴相越、寺社奉行二人、大目付、御勘定奉行、日光奉行小嶋安藝守、御目付

荒川常次郎、御勘定吟味役篠山十兵衛、奥御右筆組頭并奥御右筆兩人は常行堂に相揃罷在、備前守參着之上

一同相從ふ

常 行 堂 法 華 堂 相 輪 塔 三 佛 堂

新 宮 瀧 尾

但 別所に而休息

本 宮 神 橋

右之箇所巡見相濟、神橋脇にて一同退散各歸坊

同月十五日

一近衛左大臣殿今朝被到着

一御使御側衆平岡美濃守到着

一御法會九日目都而初日之通

一御經二卷目之内巡堂、寺社奉行阿部備中守、大目付伊藤河内守、御作事奉行村垣淡路守、日光奉行小嶋安藝

守、御目付初鹿野傳右衛門、御勘定吟味役篠山十兵衛

一御經三卷目之内、御目付初鹿野傳右衛門先導にて備前守巡堂、寺社奉行松平右京亮、大目付伊藤河内守、御勘定奉行柳生主膳正、奥御右筆組頭秋山内記、奥御右筆青木忠左衛門、布施藏之丞相從ふ
一御經四卷目畢而中休之内

御使備前守

高家差添

二種一荷 近衛左大臣殿

右今朝被到着に付被遣之

一右 御使相濟而備前守本坊え相越、於書院上之間、到着之公家衆參議以上一列、殿上人一列兩度に 上意之趣演達之、傳奏衆御禮被申述之、公家衆退座相濟而備前守上 社

一御經五卷目之内、布衣以上之面々拜禮

一御經六卷目之内巡堂、寺社奉行松平右京亮、大目付伊藤河内守

一未上刻御經相濟、備前守始諸役人退座

但 東本願寺拜禮有之に付、何も休息所に扣罷在、仁王門外立番人數殘置

一東本願寺參詣以前備前守始出席、備前守 御拜殿東之方柱際着座、寺社奉行御縁左右、大目付、御目付階下左右着座、東本願寺仁王門内にて下乗上 社、此節御唐門内迄高家出迎

一東本願寺 御拜殿三疊目にて拜禮、捧 幣有之、畢而退座

但 御太刀金馬代獻備之、坊官御唐門外迄持參、御別當受取之 御宮え納之

知恩院宮

僧

右納經持參、拜禮有之退去、相濟而備前守退散

一東本願寺 大猷院様御靈屋參詣有之、日光奉行、御目付 御靈屋階下に相向而着座、高家は御唐門内迄出迎、

東本願寺御拜殿三疊目にて拜禮、畢而退去

但 御香奠白銀御唐門外迄坊官持參、御別當受取御靈屋え納之

一御經相濟候以後、御側衆平岡美濃守 御宮え自拜、御太刀馬代獻備之、畢而 大猷院様御靈屋え參拜

一今朝四時於大谷河原施行米有之、寄非人千八百九十七人、米高二百俵^{三斗}一人に付米二升八合七勺五才充

被下之、爲見廻御徒目付一人、御小人目付一人相越、御代官手附手代等罷出、并寺社奉行家來差出、足輕立

固有之

一今日近衛殿始、公卿殿上人、地下共十八日十九日之御法席習禮有之、高家始諸役人出席、相濟而一同退散

一御名代井伊掃部頭 大納言様御名代榊原遠江守八時過到着

一備前守宿坊え爲 上使御側衆平岡美濃守相越 御懇之 上意之趣申達之、爲 御尋拜領物^{御品}有之

一備前守蒙 御懇之 上意、且拜物領之爲御禮平岡美濃守宿坊え相越、夫より 御名代宿坊え爲伺御機嫌相越

一在山布衣以上之面々 公方様 大納言様爲伺御機嫌 御名代并平岡美濃守宿坊え相越

一種一荷

御使御祭禮奉行

日光 御門跡

右明後十七日御祭禮に付被遣之

同月 六日

- 一 御法會結願に付、辰上刻備前守始諸役人上 社、休息所え相揃
- 一 辰下刻備前守始一同御法會席え着座、其後上使平岡美濃守上 社、送迎等都而去る十一日植村駿河守上 社之節之通
- 一 御經二卷目之内巡堂、寺社奉行松平右京亮、御作事奉行村垣淡路守、日光奉行本多淡路守、御目付高井山城守、御勘定吟味役篠山十兵衛
- 一 御經三卷目之内、御目付高井山城守先導に而備前守、平岡美濃守巡堂、寺社奉行阿部備中守、大目付伊藤河内守、御勘定奉行柳生主膳正、奥御右筆組頭秋山内記相從ふ、巡堂畢而 御拜殿復座
- 一 御經四卷目之内、平岡美濃守於 御拜殿闕際拜禮、此節備前守着座等之儀、都而去る十一日植村駿河守拜禮之節之通
- 一 御經四卷目畢而中休之節、備前守、平岡美濃守同道休息所え退去、五卷目以前出席
- 一 御經五卷目之内布衣以上之面々拜禮、相濟而備前守、平岡美濃守休息所え退去、六卷目之節出席
- 一 御經六卷目之内巡堂、寺社奉行阿部備中守、大目付伊藤河内守
- 一 御經七卷目畢而御導師仁王門通御上 社、御出迎等初日之通、此節證誠御門主にも從裏口御出仕、御經八之卷御讀誦畢而從裏口御退散

一日光御門跡 御拜殿之内御待合所にて開闢之節之通御挨拶有之、相濟而備前守、平岡美濃守始休息所え退去

但 例 幣使其外今日參 宮に付裝束に改む

- 一 例 幣使、臨時奉 幣使 御贈經使參 宮以前、備前守 直垂 平岡美濃守 大紋 東之方假張着座、寺社奉行、大目付、御勘定奉行、御作事奉行、日光奉行 大紋 御勘定吟味役、奥御右筆組頭 布衣 同所列候
- 一 高家 直垂 南之假張に列候
- 一 御目付 布衣 階上階下に着座 但 高井山城守は大紋着之
- 一 奥御右筆 假布衣 東之方假張落縁、表御右筆 假布衣 西之假張に相詰
- 一 御徒頭 布衣 御唐門之外御徒は勤番所に罷在 但 勤番之面々并御醫師は不相詰
- 一 幣使 經使參 宮、東廻廊に待合 御拜殿に品々飴付、例 幣使、臨時奉 幣使 禁裏 中宮 東宮 御贈經使順々上 社、御式相濟而退去 但 昇降之節送迎無之
- 一 公方様 御臺様 御納經兼而 御拜殿之内に差置 禁裏御始御贈經相濟而 公方様御染筆之御經役僧取出之、大樂院安置 御拜殿机上、執當より備前守并 御使平岡美濃守え會釋有之而美濃守於 御拜殿三疊目軾 御納經之拜禮有之復座、次に 御臺様御染筆之御經役僧取出之、大樂院備 御拜殿机上、美濃守於 御拜殿三疊目之下軾 御納經之拜禮有之而復座、此節備前守御縁東之方に出座、寺社奉行は同所後之方 御目付階上階下に如最前罷在
- 一日光御門跡裏口より御退散、御待合所に而最前之通御挨拶有之

一 備前守、平岡美濃守始諸役人一同退散

砂糖漬一箱 日光御門跡

右御法會結願に付被遣之、本坊え 御使平岡美濃守熨斗目備前守熨斗目同道勤之、御門跡御對面并御饗應等之儀、去る十一日之節之通、相濟而於書院上之間并伊掃部頭、榊原遠江守并近衛殿御馳走人え 上意之趣美濃守申達之

一 近衛左大臣殿え爲 御尋 御使平岡美濃守勤之、備前守同道、高家差添 但 被遣御品不相知

一 今夕於 御宮 御名代并伊掃部頭 大納言様御名代榊原遠江守習禮有之、御目付并日光奉行罷出

一 御經結願に付、備前守、寺社奉行、大目付、御勘定奉行連名之注進狀江戸表え以次飛脚差立之

一 同斷に付、御祝儀として在山之面々熨斗目半袴着用、備前守并平岡美濃守宿坊え相越

一 今晚 神輿新宮え 渡御に付、御祭禮奉行 衣冠日光奉行 大紋御目付 布衣日光奉行支配組頭 素袍何も神厩え相揃

一 七半時頃 神輿上神庫前に 出御、此節日光御門跡仁王門通御上社、御修法有之直に御退散

一 六半時 神輿新宮え 渡御之節、神厩前に御祭禮奉行、日光奉行、御目付平伏 神輿之御跡より新宮迄供奉 御安座之旨御別當より御目付承之各退散、右之趣備前守宿坊え御目付相越申達之

同月十七日

一 今朝六時於本坊 御名代御祭禮奉行御饗應に付、備前守、寺社奉行、大目付、御勘定奉行、日光奉行、御目付熨斗目半袴着用相越

一 御名代并伊掃部頭 大納言様御名代榊原遠江守本坊參着之節、備前守玄關客殿杉戸之内え出迎、寺社奉行始 諸役人は玄關式臺迄出迎

一 御名代始諸役人迄於席々御饗應有之、畢而御名代退散、備前守始出迎之席迄送之、相濟而一同退出

一 四時御祭禮に付、於本坊御殿地兩御棧敷拜見有之、何も熨斗目半袴着用相越

一 備前守御棧敷參着之節、御目付一人入口踏段下え出迎、寺社奉行其外は上廊下迄出迎

一 御名代并 上使御側衆參着之節は出迎無之

一 御殿地御棧敷席割

一 之間 御名代 備前守 上使御側衆 奥御右筆爲御用相詰 二 之間 寺社奉行、大目付、御勘定奉行 御作事奉行、中奥御小性、御目付 御徒頭、小十人頭、御勘定吟味役 奥御右筆組頭

三 之間 御三卿家老 御女中様方御使、御納戸頭、御納戸、御兩卿番頭、御納戸組頭、御納戸、小十人組頭、表御右筆、小十人、御醫師 三 之間 御三家、太眞殿家老 水戸中將殿傳役 末之方仕切

一本坊御棧敷

一 之間 近衛左大臣殿、青蓮院御門跡、 梶井御門跡 二 之間 宰相以上 高家御馳走人は廊下に罷在

三 之間 殿上人

一 五半時日光御門跡 新宮え御參 宮有之、延年之舞畢而御歸殿

一四時榊引來御祭禮始

一神輿渡御之節備前守、寺社奉行、大目付、御目付御殿地入口門外え罷出、往古御門之跡石段之上え備前守并寺社奉行、大目付、御目付平伏、日光奉行は石段之下え罷出平伏、其外は御棧敷にて平伏

一渡御相濟 還御迄一同御棧敷に罷在 還御之節最前之通平伏

一山中勤番之面々三ヶ所共御番所に相詰 渡御之節面番所前にて平伏

一還御迄上間、於御棧敷強飯御菓子等被下之、給仕之者、武家方は一山衆徒之弟子共、公家衆御門跡方は夫々家來罷出

一御祭禮に付御道筋立固、勤番之面々より出之、本坊御棧敷前えは立番之者出之

一八半時 還御相濟、何も御棧敷退散

一今日 御名代拜禮に付、諸役人 御宮休息所え相揃、備前守、平岡美濃守は社家門通銅御庫脇假玄關より休息所え相越

一御名代兩人仁王門通上 社、石御鳥居外に而下乘、休息所え相通

一高家、寺社奉行、大目付、御勘定奉行、御作事奉行、日光奉行各束帶 御目付、御納戸頭、御勘定吟味役、奥御右筆組頭各布衣 奥御右筆、表御右筆各假布衣 日光奉行支配組頭素袍 御法會中之通着座

一備前守并平岡美濃守各束帶 參宮 諸役人如例出迎

一御宮え衆僧、伶人着座之後御簾揚之、日光御門跡 御拜殿東之方え御着座、執當より案内有之而 御名代并

伊掃部頭束帶 大納言様御名代榊原遠江守束帶 參宮、此時備前守、平岡美濃守階下東之方、高家、寺社奉行、大目付、御勘定奉行、御作事奉行、御目付等渡廊下左右、執當、御別當、年行事御唐門之外、右階下え出迎

御名代昇階 御拜殿東之方二之間上疊に着座、畢而備前守始一同復座

一御進獻之御太刀一振、御目錄御納戸頭持參、御唐門にて寺社奉行請取、御縁にて御別當え相渡御別當受取之 御名代着座之脇え置之、次大納言様御進獻之御太刀一振、御目錄御納戸頭持參、次第同前 御名代着座之脇に置之

一御三品立御供獻備傳供之間奏音樂、衆僧唱讚、右御作法畢而御太刀御目錄御別當 御幣殿え備之、此時銅御鳥居之前え神馬一疋率之、御既別當 布衣 勤之、次に日光御門跡 御幣殿え御入 御名代并伊掃部頭え御別當會釋、掃部頭起座 御拜殿之軾に而拜禮御拜殿之軾中央に設之 社家奉 幣、掃部頭頂戴、畢而復座、次に 大納言様御名代榊原遠江守拜禮、次第同前但軾替之 御馬代御進獻有之御馬代は先達而畢而掃部頭大樂院え相廻置 御幣殿え入、神酒頂戴復座、次に遠江守神酒頂戴畢而復座

一日光御門跡 御拜殿え御着疊有而 御名代退出、御門跡 御拜殿中央迄御送り御挨拶有之、此時備前守初最前之通送之 御名代東回廊に扣罷在

一御臺様 御簾中様 姫君様方御代拜、并御三家其外名代之使者西回廊に扣罷在、一人充御進獻物持參、御拜殿にて社家受取備 御幣殿

一御臺様御代拜御用人村上志摩守束帶 御幣殿中央之下軾設之、拜禮捧 幣、同席にて神酒頂戴退去回廊に扣

罷在

一御簾中様御代拜御用人荻原金十郎 布衣 拜禮次第同前

一淑姫君様御代拜御用人福村理大夫 布衣 峯姫君様御代拜御用人宮本三次郎 布衣

之順々拜禮、畢而西回廊に扣罷在 但 捧 幣神酒頂戴無之 御拜殿三四疊目之間に軾設

一橋大納言殿名代之使者

△家老

仙石 丹波守

東帶帶劔

水戸宰相殿名代之使者

△同

中山 備前守

同 斷

徳川式部卿殿名代之使者

△同

岡村 丹後守

同 斷

右一人充拜禮 御拜殿三疊目に軾設之各捧 幣、石之間にて神酒頂戴之退去、西回廊に扣罷在

徳川太真殿名代之使者

△同

山高 庄右衛門

布衣

水戸中將殿名代之使者

△傳役

大場 彌右衛門

同 斷

貞章院殿名代之使者

△式部卿殿番頭

齋藤 權八

同 斷

乘蓮院殿名代之使者

倉橋 五郎右衛門

同 斷

紀伊中納言殿名代之使者

△同

水野 對馬守

同 斷

尾張中納言殿名代之使者

△同

成瀬 隼人正

同 斷

徳川右衛門督殿名代之使者

△同

石谷 周防守

同 斷

徳川民部卿殿名代之使者

△同

仙石 丹波守

同 斷

徳川兵部卿殿名代之使者

△民部卿殿番頭

倉橋 五郎右衛門

同 斷

乘蓮院殿名代之使者

倉橋 五郎右衛門

同 斷

右一人充拜禮 御拜殿三疊目に軾設之、畢而退去、西回廊に扣罷在
一御名代自分之拜禮有之

井伊 掃部頭

右御太刀目録持參 御拜殿にて社家請取納 御幣殿、於 御拜殿三疊目軾拜禮、社家捧 幣、於同席神酒頂戴退去

榊原 遠江守

右於 御拜殿一疊目拜禮、次第同前
但 奥院御法會始候迄掃部頭、遠江守東回廊に扣罷在

牧野 備前守

右於 御拜殿二疊目拜禮、次第同前
平岡 美濃守

右御太刀目録持參、於 御拜殿圍之内一疊目拜禮捧 幣、神酒頂戴無之

高家	中條 河内守	戸田 備後守	大澤 右京大夫
勤番	奥平 大膳大夫	寺社奉行 阿部 備中守	松平 右京亮
勤番	木土 佐守	土岐 山城守	火之番 鳥居 丹波守
御馳走人	細川 和泉守	京極 長門守	

毛利 甲斐 守

御三卿家老 仙石 丹波 守

石谷 周防 守

岡村 丹後 守

大目付 伊藤 河内 守

御勘定奉行 柳生 主膳 正

御作事奉行 村垣 淡路 守

日光奉行 小嶋 安藝 守

本多 淡路 守

右一人充御太刀目録持參、於 御拜殿拜禮捧 幣、神酒頂戴無之

一御臺様 御簾中様 姫君様方 御代拜御用人、并兵部卿殿名代之使者右衛門督殿、御簾中、貞章院殿、乘連院殿名代之使者二三人充、於御緣拜禮

一御三家家老傳役二三人充、於御緣拜禮 但 御太刀目録は以使者本坊え納之

一右拜禮之内、備前守は御縁束之方、寺社奉行は同後之方に着座、御目付階下に罷在

一拜禮畢而日光御門跡石之間え御退座、備前守始諸役人休息所え退去

一於 奥院法華八講五座御法會有之

一一番鐘に而備前守、平岡美濃守各束帶 帶劔 參 堂、高家、寺社奉行、大目付、日光奉行各束帶 帶劔 御目付一人 布衣先達而相越罷在 奥院御拜殿前廊下迄出迎

但 一番鐘八半時之手續に候處夜九時前に及ぶ

一大目付、御目付は 奥院八講には不相詰先格に候得共、夜に入候に付相詰候事

一二番鐘にて傳奏衆并殿上人三人參 堂、日光御門跡、青蓮院御門跡、梶井御門跡御出仕 御拜殿御着座、次に 御名代井伊掃部頭 大納言様御名代榊原遠江守參 堂 御拜殿着座、備前守始出迎

但 傳奏衆、殿上人參堂には出迎無之

一御法會以前御三品立御膳獻備之、御別當加持法樂

一八講第五之座御執行有之

一御門跡并 御拜殿之衆僧華籠、公家衆賦之 御寶塔前衆僧之華籠は十弟子役之

一曉六時御法會畢而青蓮院御門跡、梶井御門跡并傳奏衆、殿上人被退散、衆僧退去

一日光御門跡 御寶塔前え御入、西之方御着座、執當案内有之而 御名代井伊掃部頭、於 御寶塔前軾拜禮、畢而復座、次に 大納言様御名代榊原遠江守於 御同所拜禮畢而復座、日光御門跡御復座、御門跡 御拜殿

中央に而御會釋有之 御名代退出、備前守始送之、次に日光御門跡、備前守え御會釋有之而御退出、相濟而備前守始一同退散

一日光御門跡 御宮御拜禮、御太刀馬代被獻之、歡喜心院宮より代僧觀理院權僧正を以御納經有之

一奥院御法會相濟而於本坊御太刀馬代獻上有之に付、備前守變斗目 長袴 相越、寺社奉行、大目付、御勘定奉行、日光奉行、御目付、奥御右筆各變斗目 長袴 相越

一本坊客殿上之間御門跡御出座、備前守始諸役人着座、侍従以上之面々使者御太刀目録持參順々奉納有之、畢而御門跡備前守え御挨拶有之而御退座、相濟而備前守始諸役人退散

一御太刀馬代獻上に付、本坊廻り立固奥平大膳大夫、土岐山城守家來出之

一奥院御法會相濟、即刻平岡美濃守發足

一今朝御殿地御棧敷に於而大目付、御目付え左之書付備前守渡之

日光發足之次第

四月十八日

宇都宮通

△小十人頭 駒井 但馬守

同 組 十九日

壬 生 通

△中奥御小性

蛭川 大和守

△同

松平 内匠頭

△同

中嶋 民次郎

宇都宮通

△中奥御小性

石川 大隅守

△同

松平 但馬守

同 廿日

△寺社奉行

松平 右京亮

宇都宮通

△奥御右筆組頭

秋山 内記

△奥御右筆

布施 藏之丞

△同

蒔田 河内守

△御徒頭

長井 五右衛門 組 共

△同

白須 和泉守

△表御右筆

宇多 松次郎

△同

松平 主計頭

△同

溝口 備後守

壬 生 通

△總奉行

牧野 備前守

表 坊 二人 主

同 廿一日

壬 生 通

△奥御右筆

青木 忠左衛門

△表御右筆

新村 登八郎

日野 中納言

八條 近江權守

細川 差次藏人

北小路 江藏人

大 外 記

官 務

御 藏 四人

△高家

大澤 右京大夫

△御納戸組頭

伴野 權次

△同

鈴木 清兵衛

宇都宮通

△寺社奉行

阿部 備中守

△御納戸

櫻井 庄太郎

△同

早川 善左衛門

△御納戸頭

田澤 政次郎

△同

鈴木 熊藏

△同

御納戸 同心 十人

近衛 左大臣殿

六條 前大納言

甘露寺 大納言

△御馳走人

萬里小路 左大辨宰相

△御目付

細川 和泉守

武者 小路少將

△同

高井 山城守

勸修寺 權右中辨

富永 三郎右衛門

徳川禮典附録 卷十三

八二五

御徒目二付
黒鉄之三者

同 廿二日

字都宮通

御小人目付六人

御使之四人

青蓮院御門跡

山科前大納言

飛鳥井宰相

橋本少將

豐岡右兵衛佐

清岡大學頭

△勤番 奥平大膳大夫

△御馳走人 京極長門守

△御目付 荒川常次郎

御徒目一付

御小人目付二人

御使之二人

黒鉄之三者

壬生通

徳大寺中納言

梅溪中將

綾小路中將

持明院少將

少外記

主殿寮二人

大藏省

左馬寮

右馬寮

兼内記

威儀師

從儀師

網取

網威儀師

△高家中條河内守

同 廿三日

字都宮通

梶井御門跡

少史

出納二人

治部官人二人

玄蕃官人

主水司

史

仕人二人

衛士三人

△勤番 土岐山城守

△同 朽木土佐守

△御馳走人 毛利甲斐守

△御勘定奉行 柳生主膳正

△御勘定組頭 芝與市右衛門

△御勘定出役 大竹庄九郎

御普請二人

△御勘定吟味役 篠山十兵衛

吟味方改役下役一人

△御代官 大貫治右衛門

△御勘定組頭 守屋權之丞

△御勘定 成瀬久右衛門

△同 河合内藏助

御普請一人

△寄合醫師 船橋宗廸

壬生通

四辻中納言

園池近江權介

高野刑部大輔

中園上總權介

召使

副使三人

雅樂官人

玄蕃官人

彈正官人

掃部寮

左官掌

右官掌

圖書官人

駕輿丁四人

△高家 戸田備後守

△御番外科
佐藤 景南

同 廿四日

△御祭禮奉行

鳥居 丹波守

樂人四十五人

菩薩人十二人

宇都宮通

△御祭禮奉行

稲垣 信濃守

△大目付
伊藤 河内守

同 廿五日

宇都宮通

△日光奉行

本多 淡路守

△御目付
初鹿野 傳右衛門

御徒 目付二人

御小人 目付四人

△御代官
佐藤 忠左衛門

△同
杉 庄兵衛

△同
平岡 彦兵衛

△御勘定吟味方改役
渡邊 三郎助

△御勘定
川 勝來太郎

△同
山田 益彌

△同
菅谷 彌五郎

△同
澤 藤十郎

御普請 役四人

宇都宮通

△御作事奉行

村垣 淡路守

△御代官
山田 常右衛門

△漆奉行
村田 幾三郎

漆奉行 手代四人

同 廿七日

宇都宮通

△御代官

竹内 新八郎

五月二日

宇都宮通

△御代官

岸本 武八

△御勘定吟味方改役
西村 鐵四郎

△同
中村 繼次郎

御普請 役三人

△御勘定
伊藤 斧右衛門

△同
久保 田吉次郎

吟味方改役 下役一人

御普請 役二人

右之内勤番、火之番、御馳走人は小勢に而日光發足、其外之家來、諸荷物は廿五日より段々遣候様向々え可被達候、堂上方多候故、人馬差支候間相觸事候 以上

四月

同月十八日

- 一於 御本社御經供養有之に付、辰上刻備前守上 社、高家、寺社奉行、大目付、御勘定奉行、御作事奉行、日光奉行、御目付、御徒頭、小十人頭、御勘定吟味役、其外且勤番等先達而相揃罷在
- 一被物所に御納戸頭、御納戸組頭、御納戸并同心等相詰、被物持參、被物所之前に中奥御小性侍座
- 一近衛左大臣殿輪藏え被相越、其外參議以上并殿上人等先達而相越
- 一一番鐘にて衆僧、伶人出仕、次に備前守始諸役人御法會中之通出席
- 一二番鐘にて近衛殿始公家衆參 宮、此節御馳走人は仁王門外え出迎、高家は仁王門内え罷出、其外出迎無之
- 一青蓮院御門跡、梶井御門跡爲證誠裏口より御上 社
- 一圖書官人唱鐘に而公家衆着座、并證誠御門主方御着座
- 一御名代井伊掃部頭 大納言様御名代榊原遠江守參 宮、備前守始出迎有之、着座相濟而各復座
- 一御導師日光御門跡行列に而幄え御入、此節樂行事伶人を引幄前え御出迎奏音樂、御導師聲明有而幄を被出、伶人御先に立、僧正院家行列、御門跡御步行にて御參 宮、執綱執蓋殿上人役之
- 一備前守は御緣迄、寺社奉行等は階下迄御出迎、御導師御昇階備前守え御會釋有之御着座、御經供養始る
- 一華籠賦之三御門主并内座衆僧之華籠中奥御小性持出、階下に而公家衆請取供之、緣座讚衆之華籠は中奥御小性賦之、散華畢而御門跡并内座衆僧之華籠公家衆撤之、緣座讚衆之華籠中奥撤之
- 一御經畢而舞樂始る、從是被物之式有之、御門跡方并内座衆僧えは公家衆勤之、緣座衆僧えは中奥御小性役之、畢而御門跡方被物坊官撤之、其外衆僧は自抱而退去

但 被物は唐織白綾等之小袖、御納戸頭より順々中奥御小性え渡之、階下にて公家衆え渡之、緣座衆僧之被物は中奥御小座如前請取、階上え持參曳之

- 一證誠御門主御退散并公家衆退去
- 一日光御門跡 御幣殿え御着座 御名代井伊掃部頭 大納言様御名代榊原遠江守拜禮捧 幣、神酒頂戴等昨日之通相濟而 御名代退出、此節 御拜殿中央に而御門跡御會釋有之、備前守始最前之通送之
- 一日光御門跡裏口より御退散、備前守始御挨拶有之、結願之節之通
- 一備前守退出相濟而諸役人退散
- 一御供養未上刻相濟
- 一江戸表え之注進狀如例

同月十九日

- 一於御本地堂、胎曼陀羅供御供養有之に付、辰上刻備前守始諸役人參 堂、御法會中之通出席
- 一被物所之儀、昨日之通御納戸頭等相詰罷在
- 一御名代兩人參 堂、此節階下北之方より廊下通諸役人出迎、備前守は假階段下え出迎
- 一近衛殿始公家衆參 堂昨日之通
- 一青蓮院御門跡、梶井御門跡裏口より御出仕 御拜殿御着座
- 一御名代兩人 御内陣北之方着座、次に御導師、日光御門跡行列にて昨日之通御參 堂有之、此節備前守階上

假縁北之方迄、寺社奉行等階下左右え御出迎

一御法事始華籠之儀賦撤共昨日之通、御經畢而舞樂始、右之内被物之式有之、昨日之通相濟而衆僧退出、證誠御門跡方 御宮西回廊え御退去、公家衆は東回廊え退去、日光御門跡 御名代え御會釋有之 御名代退出御門跡御送有之、備前守始最前出迎之席迄送之、畢而復座、御門跡備前守え御會釋有之 御宮御待合所え御退去、備前守始最前御出迎之席迄送之、相濟而備前守退出

一近衛殿、青蓮院御門跡、梶井御門跡其外公家衆 御宮拜禮に付、高家、寺社奉行、日光奉行、御目付等熨斗目長袴着用相詰、備前守は不相詰

一御法會中之通寺社奉行、日光奉行御縁出座、御目付兩人階下左右に着座、日光奉行支配組頭も相詰

一近衛左大臣殿、青蓮院御門跡、梶井御門跡 御拜殿中央に而被拜禮捧 幣有之、大納言、中納言は御同所中央之下、宰相は又下之方、殿上人は二三疊目、極蔭、藏人は闕際にて拜禮捧幣有之、畢而一同被退散送り等無之

一本坊え爲 御使備前守相越、右に付寺社奉行、大目付、御勘定奉行、日光奉行、御目付、御納戸頭、同組頭、御納戸御右筆相詰

白銀千枚
時服五十枚
日光御門跡

御法會相濟候に付、爲御布施物被遣之

右御門主御出席、備前守演達之畢而出家中え被下物、且日光奉行并支配向えも拜領物之儀申渡、相濟而備前

守退出 但 出家中被下物并日光奉行始拜領物之御品不知

一日光御門跡え御菓子一箱被遣之、江戸表より老中奉書を以到來、備前守より執當え達之

一御法會、御供養共萬端無滞相濟候に付、爲御歡備前守本坊え相越、夫より 大猷院様御靈屋 御名代太田備中守參着に付、爲伺御機嫌相越

一在山布衣以上之面々も爲伺御機嫌太田備中守宿坊え相越

一明廿日 大猷院様御靈屋え近衛殿、御門跡方、公家衆被參詣に付、高家、寺社奉行、御目付相詰候様備前守書付を以達之

一同斷に付勤番立固之儀、仁王門勤番朽木土佐守家來差出候様達之

同 月廿日

一大猷院様御靈屋 御名代太田備中守參拜、相濟而備前守并井伊掃部頭、榊原遠江守、且在山之面々自拜有之此節日光奉行、同支配組頭、同吟味役御縁出座

但 御靈屋え備前守白銀五枚、井伊掃部頭同十枚、柳原遠江守同二枚、寺社奉行同一枚充猷備之

一近衛殿、御門跡方、公家衆 御靈屋拜禮に付、高家直垂 寺社奉行、日光奉行 大紋、御目付 布衣相詰

一近衛殿御門跡方公家衆順々拜禮、畢而退散 但 近衛殿、御門跡昇降之節送迎有之

一右に付立固朽木土佐守家來出之

一今日九時過備前守發足歸府

一 近衛殿、御門跡方、公家衆、地下樂人等兼而相達候日割之通發足江戸參向
一 諸役人等兼而相達候日割之通順々發足歸府

東照宮二百回御忌に付、上野執當より差出候手續書

二百回 御神忌之節、四月四日總御奉行爲 上使御本坊え御越之次第

一 四月四日四時前寺社奉行より總御奉行御宿坊え御案内有之、追付總御奉行爲 上使御越、寺社御奉行、日光奉行、御醫師式臺南之方、執當、御留守居北之方、坊官、家司等下座敷え御出迎、執當御先立御小座敷え御通、追付執當御案内申上 上使御書院え御通先次之間闕外際に御着座、寺社御奉行以下同所下之方に着座、御門主 上使え御會釋有之 上使闕之内え御入、直に中程え御進み、御口上畢而闕際迄御退、御門主御挨拶有之、執當之取合申上、次御請被仰候時 上使御進御直答、畢而少し御送 上使御退出、御送如御迎

四月九日總御奉行始諸御役人中御饗應之次第

一 九日御經後、西本願寺代僧等拜禮相濟、武家方 御宮御休息所に被待合、御本坊より寺社御奉行え案内有之、總御奉行等御役人中御同道御本坊え御越、執當、御留守居式臺迄、坊官家司等下座敷え御出迎、執當御案内御書院え御通、總御奉行上之間南之方闕之内、高家衆、寺社御奉行、勤番、火之番、大目付、御勘定奉行、御作事奉行、日光奉行、御目付、御徒頭、小十人頭、御勘定吟味役、奥御右筆組頭、御醫師、奥表御右筆、御勘定組頭、御代官、御疊奉行、漆奉行、御勘定、御大工頭、御作事下奉行、右次之間兩側闕際より縁側迄並居、次御門主御出御對顔、總御奉行等え御挨拶有之、畢而御入、次御料理出之、座席繪圖之通、但日光奉

行四之間、御右筆以下御小座敷 御徒目付、御被官、御徒假役、勘定役、表坊主、御普請役、御小人目付、御使之者、定普請同心、植木同心、御作事方小役、書役、同手代、御疊方世話役、同手代、御疊大工、漆奉行手代、黒鉄之者、大棟梁、右大廣間等其外所々に而御料理被下之、御吸物之後御門主御出、總御奉行え御盃事有之、總御奉行御返盃之時、寺社御奉行より皆々え御盃被下候儀、御六ヶ敷可有御座旨御挨拶有之、御土器撤之、御門主御入、其後御饗應、畢而御門主御出御對顔、此時御小座敷より御右筆以下如初縁側並居、總御奉行御挨拶有之、畢而御門主御入、次武家方御退出、御送り如御迎 但 門外より御立歸御禮被仰置候

四月十五日總御奉行爲 上使御本坊え御越 公家衆え 上意被仰渡之次第

一 四月十五日高家衆より公家衆え通達有之、五半時公家衆御本坊え集會、御經中休前御本坊え案内いたし置、中休之節總御奉行其外武家方御本坊え御一同に御越、執當、御留守居式臺迄御出迎、御先立 上使御書院え御通、上之間東之方御着座、高家衆、寺社御奉行、大目付、御勘定奉行、御作事奉行、御目付南之縁側着座、兩傳奏上之間北之方え御出席、寺家案内、公卿一列上之間西之方御着座 上意被仰渡、傳奏御取合畢而公卿御退出、次殿上人同所少し下一列着座 上意被仰渡、傳奏御取合殿上人退座、畢而 上使御退出、武家方式臺南之方御送、執當、御留守居御送如御迎

二百回 御神忌之節四月十一日御經中日 上使を以御菓子被進候次第

一 四月十一日曉六時前、寺社御奉行等御本坊え御越、執當より寺社御奉行え申上、夫より御目付え通達有之、御目付より御案内有之曉六時過 上使總御奉行御同道にて御出、寺社御奉行、大目付、御勘定奉行、御作事

奉行、日光奉行、御目付式臺南之方、執當、御留守居北之方、坊官、家司等下座敷え御出迎、執當御先立御小座敷え御通、追付御案内申上、御書院え御通先次之間闕外際にて御中座、上之間え御入、御門主 上使え御會釋有之、總御奉行次之間闕際南之方御着座、寺社御奉行、大目付、御勘定奉行同所下之方、日光奉行北之方に着座、御菓子一箱豫め上之間障子際に置 上使中程え御進 御口上畢而 上使御退候時、總御奉行え御門主御挨拶有之、執當御取合申上、御門主御退去、次 上使次之間にて、御法會に付參勤之諸御役人中え上意被仰達候に付、寺社御奉行以下退座 上使次之間東之方、總御奉行南之方二疊目御着座、先寺社御奉行、大目付、御勘定奉行、御作事奉行、日光奉行西之方列座 上意被仰渡、相濟退座、次高家衆、勤番、火之番、上方兩御門主御馳走人一列 上意被仰渡、相濟退座、次御目付、御徒頭、小十人頭一列 上意被仰渡、相濟退座、右畢而御料理出之、上使上之間闕際一疊目南之方、總御奉行次之間闕際一疊目北之方御着座、寺社御奉行、大目付、御勘定奉行次之間下之方左右に着座、日光奉行、御目付御小座敷着座、御吸物之後御門主御出 上使え御盃事有之、畢而御門主御入、御饗應相濟 上使上之間、總御奉行次之間闕際に御着座、高家同所中程え出席、寺社御奉行以下縁側南之方一列着座、寺家案内、兩傳奏上之間下之邊え御出座 上意被仰渡、總御奉行御取合有之、畢而御門主御出座御請被仰候時 上使御進御直答、畢而少し御送、御門主御入 上使御退出、御送如御迎

御經結願 上使を以御菓子被進候次第

四月十六日御結願に付 御宮例 幣使御規式後 公方様 御臺様御經御奉納之御使御拜禮等畢而上使御勤被成候に付、總奉行御同道に而 御宮御休息所に御待合、御本坊より左右有之而 上使及總御奉行御一同御本坊え御越、寺社奉行、大目付、御勘定奉行、御作事奉行、日光奉行、御目付式臺南之方、執當、御留守居北之方、坊官、家司等下座敷迄御出迎、執當御先立に而御小座敷え御通、追付執當御案内申上御書院え御通、御菓子一箱被進之、式并御饗應之次第、御相伴人數等之儀全如十一日、但今日御饗應後 上使御書院於上之間 兩御名代并大臣殿御馳走人え 上意被仰渡、右畢而御門主御出座、御請被仰候時 上使御進御直答、畢而少し御送御退出、御送如御迎

但 御名代御本坊御客殿上之間に被待合、御目付より御案内有之、御書院え御出席之事

兩 御名代御饗應之次第

一四月十七日曉六時寺社御奉行、大目付、御勘定奉行、御目付御本坊え入來、次總御奉行御越、寺社御奉行より御目付え通達、御目付より御案内有之 兩御名代御出、總御奉行御玄關御客殿之間杉戸之内迄御出迎、寺社御奉行、大目付、御勘定奉行、日光奉行、御目付式臺南之方、執當御留守居北之方、坊官、家司等下座敷え御出迎、執當御先立 兩御名代御小座敷え御通、追付執當御案内申上、御書院え御通先次之間闕際南之方御着座、御門主御會釋有之、上之間南之方闕之内え御入、總御奉行次之間北之方闕外際、寺社御奉行、大目付、御勘定奉行同所下之邊、御祭禮奉行次之間南之方着座、御門主御挨拶畢而御入、追付御料理出之、臺之物出る時御門主御出 兩御名代え御盃事有之 兩御名代御返盃畢而銚子納之、御門主御入御饗應畢而 兩御名代御退去、御送如御迎

總御奉行爲 上使御本坊え御越御施物被進、并僧正院家等拜領物之事

一四月十九日於 御宮公家衆捧 幣相濟候後、御納戸組頭、御納戸三人被進物等豫御本坊え持參、寺社御奉行、大目付、御勘定奉行、御目付、御右筆先達而御本坊え御越、總御奉行え御目付より御案内有之、追付爲 上使總御奉行御本坊え御越、此時寺社御奉行、大目付、御勘定奉行、御目付等式臺南之方、執當、御留守居北之方、坊官、家司等下座敷え御出迎、執當御先立 上使御小座敷え御通、追付執當御案内申上 上使御書院え御通先次之間闕外際に御着座、寺社御奉行同所下之方、大目付、御勘定奉行、御目付南之縁側、日光奉行三之間闕外着座、被進物之臺豫三之間に置之、御門主 上使え御會釋有之、上使上之間え御入、直に御進御口上畢而惣中え之御施物并別拜領物、御目錄二通豫寺社御奉行より執當え御渡、此時持出御門主え入御覽、次に御門主御直答并惣中拜領物等之御挨拶、畢而御門主少し御送御入、次上使惣中え拜領物被仰渡候に付、次之間西向正面え御轉座、其餘武家方本座之儘學頭、執當、御留守居、御別當衆兩人、坊官、家司、侍法師迄次之間北之方二疊目より西之方え折廻し一同着座、社家二人御縁通入側え罷出、此時 上使 御神忌御法會に付拜領物被 仰付旨被仰渡、寺社御奉行御取合、畢而一同勝手え退去、次日光奉行兩人一同出座 上使拜領物被 仰付旨被仰渡、相濟而 上使御退出、御送如御迎、尤僧正、院家、御留守居、御別當等式臺え御送

但 僧中拜領物等被仰渡相濟候後、御納戸頭より被渡之候

右寺社奉行より出之、可爲書面之通旨備前守達之

於日光山 東照宮二百回御忌 勅會御法事に付參向之面々

公 卿

近衛左大臣殿 六條前大納言 山科前大納言

甘露寺大納言 徳大寺中納言 日野中納言

四辻中納言 飛鳥井宰相 萬里小路左大辨宰相

殿上人 綾小路中將 持明院少將

梅溪中將 橋本少將 豐岡右兵衛佐

武者小路少將 八條近江權守 高野刑部大輔

園池近江權介 中園上總權介 清岡大學頭

勸修寺權右中介 北小路江藏人

細川差次藏人

着座御門跡

青蓮院御門跡 梶井御門跡

臨時奉幣使

飛鳥井宰相

同 次官

豐岡右兵衛佐

禁裏御贈經使

梅溪 中將

中宮御贈經使

綾小路 中將

東宮御贈經使

持明院 少將

地 下

大外記 押小路 大外記中原師德

少外記 山口 少外記中原禹昌

少內記 平田 少內記中原職顯

同 出納 豐後守中原職寅

同 神原 治部少丞和氣正信

同 青木 玄蕃少允宗岡壽行

同 佐々木 雅樂少允源彥明

同 彈正官人

官務 壬生 左大史小槻以寧

少史 蟲鹿 東市正小槻秀芳

出納 出納 內藏權頭中原職厚

治部官人 山口 治部大丞紀行厚

玄蕃官人 山科 玄蕃權助紀生靜

雅樂官人 濱路 雅樂權助藤原正芳

彈正官人 堀川 彈正大忠大石重弘

式部省 谷口 式部大錄平胤祿

同 小野 主殿大允佐伯職定

同 粟津 玄蕃助中原職興

同 村井 兵部大丞藤原政親

左官掌 小野 兵部少丞紀氏意

召使 青木 中務大錄宗岡行有

同 官符 三宅 中務少錄宗岡行邦

左馬寮 大嶋 左馬大允源友將

主水司 橋本 主水佐原井益行

圖書寮 藤井 圖書大允源義信

仕人 佐々木内匠 源正光

衛士 藤井伊豫椽 藤井總博

同 重帶刀 藤井正澄

同 湯淺兵庫 藤井守行

同 同

主殿寮 小野 主殿權助伴敦雄

御藏 眞繼 美濃守齋部康寧

同 山科 加賀介紀正之

史生 行事官 内匠少允紀尹昌

右官掌 庄田 玄蕃大允紀氏利

宣命 青木 内藏少允宗岡行信

兼大藏寮 堀川 近江守大石弘業

右馬寮 大嶋 右馬大允源友積

掃部寮 平岡 掃部助藤原利直

同 長野 圖書少允藤原祐享

同 德岡右京 小野久光

同 重主計 藤井自重

使部 山田左門 藤井茂矩

同 大崎右近 藤井保元

同 同

使部	大藝織部	加茂	寛薫	駕輿丁	小畑數馬	秦	定都
同	大石主計	秦	滿次	同	杉田左京	秦	包承
同	岩井式部	秦	政階	威儀師	芝築地治部卿	法印	享謙
從儀師	鳴瀧兵部卿	法眼	幸寛	寺家	寺家宰相	法印	養敬
承仕	濱岡	道泉	同	同	濱岡	道以	殿
綱掌	凌雲房	證寶	同	同	同	同	同
同	加納	帶刀	同	同	同	同	同
同	岡田	平兵衛	同	同	同	同	同
繪所	木村	了琢	同	同	同	同	同
樂人	大佛師	七條	左京	大佛師	七條	左京	左京

岡	甲斐	守	多	能登	守	東儀	西市	正
安倍	信濃	守	林	日向	守	豐	長門	守
窪	美濃	守	芝	石見	守	岡	備後	守
東儀	播磨	守	林	雅樂	助	山井	伊豫	守
芝	肥後	守	蘭	淡路	守	多	大和	守

多	因幡	守	園	佐渡	守	久保	左近將監	
窪	陸奥	守	東儀	肥前	守	多	飛驒	守
岡	讚岐	守	林	攝津	守	安倍	加賀	守
芝	備前	守	安倍	右近將監	多	土佐	守	
安信	右兵衛	大忠	東儀	肥後	介	奧	丹波	守
窪	左近將監	窪	右近將監	同	同	同	同	
東儀	出羽	守	辻	左近將曹	安部	右近將曹	同	
芝	右近將曹	窪	左近將曹	同	同	同	同	
久保	右近將曹	東儀	阿波	介	東儀	薩摩	介	
安倍	元千代	多	茂次郎	同	同	同	同	
東儀	河内	守	同	同	同	同	同	
安倍	筑後	守	東儀	筑前	守	岡	遠江	守
奧	左近將監	豐	伊賀	守	同	大和	介	

同武家御用掛之面々

御名代

井伊掃部頭

總奉行

牧野備前守

大納言様御名代 榊原遠江守

御法會御用掛

若年寄 植村駿河守

御使 平岡美濃守

長坂口勤番

奥平大膳大夫

仁王門勤番 朽木土佐守

新道口勤番

土岐山城守

山中火之番 御祭禮奉行兼 鳥居丹波守

勤番火之番 御祭禮奉行兼代

松平左衛門尉

近衛左大臣殿 御馳走役 日光に而 細川和泉守

青蓮院御門跡

日光に而 京極長門守 江戶に而 木下佐渡守

梶井御門跡 日光にて 毛利甲斐守

御馳走役代り

池田内匠頭 小出信濃守

高家 中條河内守

戸田備後守

大澤右京大夫

江戶掛 織田主計頭

寺社奉行 阿部備中守

松平右京亮

江戶掛 松平右近將監

大目付 伊藤河内守

御勘定奉行 柳生主膳正

江戶掛 肥田豊後守

御勘定組頭 芝與市右衛門

守屋權之丞

江戶掛 加藤惣兵衛

御代官 大貫治右衛門

山田常右衛門

杉 庄兵衛

川崎平右衛門

吉川永左衛門

佐藤忠左衛門

平岡彦兵衛

山口鐵五郎

竹内新八郎

大草太郎右馬

岸本武八

漆奉行 村田幾三郎

御勘定 評定所留役 輕部傳藏

御勘定 成瀬久右衛門

川勝來太郎

山田益彌

河合内藏助

菅谷彌五郎

澤藤十郎

久保田吉次郎

伊藤斧右衛門

藤井百助

中村繼次郎

同出役 小普請組 近藤左京支配 大塚仁左衛門

支配勘定 大塚仁左衛門

戸田政次郎

御普請役 荻野大八

近藤彌太六

夏目左門太

岡田左市

外 名前不分明 人

御作事奉行 村垣淡路守

御大工頭 和田源助

御疊奉行 生田丈助

御作事下奉行 三輪善平

江戶掛 金田藤七郎

同御被官 成澤榮藏

山川茂大夫

江戶掛 山口多三郎

同見習 今井孫三郎

江戸掛假役 水野 彌右衛門 青山三左衛門 大越千太郎
 向坂 勘藏 岸 權次郎 同勘定役 山田 忠五郎
 村上與五郎 鈴木宗大夫 江戸掛 平野 定八郎
 菅谷 源次郎 江戸掛 石場 金十郎 同出役 坪井 喜惣次
 御疊手代世話役 山崎 傳兵衛 御作事方手代 丸山 傳次郎 岡本 源五郎
 川村 平五郎 江戸掛 高崎 清三郎 御疊手代 吉野 宗次郎
 青柳 大次郎 福井 條右衛門 御作事方定普請同心組頭 木村 勘兵衛
 同定普請同心 小嶋 勇藏 寺嶋 八十八 飛田 甚之助
 後崎 藤右衛門 堀 市三郎 同見習 森田 金藏
 江戸掛 大戸 八十次郎 同出役 小竹 榮次 同見習 篠崎 重次郎
 大棟梁 石丸 大和 御疊大工 伊阿彌 宗之助 高木 吉次郎
 御疊方書役 小嶋 三十郎 濱松 清七 同見習 井口 勘之丞

日光奉行 小嶋 安藝守 本多 淡路守 同支配組頭 三嶋 所左衛門
 西田 金次郎 御勘定格 山口 新左衛門 同支配吟味役 野澤 奎五郎
 喜多村 伴次郎 高木 直藏 同見習 小野 吉太郎
 小嶋 金之丞 山口 忠左衛門 同吟味役勤方 川口 權六
 野澤 豊次郎 小嶋 甚内 同手附出役 沼間 五郎大夫
 藤野 茂兵衛 星野 郡兵衛 江戸掛 中嶋 良右衛門
 深町 喜兵衛 川口 宗三郎 江戸掛 金子 半五郎
 同組同心 齋藤 傳四郎 山中 佐四郎 同出役 野中 清五郎
 小村 太助 同並 野村 政藏 樋山 善藏
 小村 民藏 神山 熊太郎 大橋 甚左衛門
 吉澤 市郎次 櫻井 吉右衛門 武木 平吉
 鶴見 太一郎 大手 惣兵衛 荒岡 榮次
 同見習 吉田 熊太郎 小林 藤三郎

中奥御小性

蜷川大和守 蔭田讚岐守 白須和泉守
松平内匠頭 石川大隅守 松平主計頭
溝口備後守 松平但馬守

御目付

初鹿野傳右衛門 高井山城守

江戸掛

村上監物

荒川常次郎

富永三郎右衛門

江戸掛

鈴木分左衛門

御目付
三浦伴次郎

小川伊兵衛

小田切彦兵衛

加藤才助

坂部九十郎

原田勘藏

小室源四郎

鈴木猪之助

御小人目付
大橋七郎右衛門

高柳平次郎

梶川清次郎

栗原伊八

鈴木猪之助

齋藤榮三郎

小泉運八

須藤忠藏

金井定四郎

春日井忠次郎

伊内源太郎

伊内作大夫

伊内作大夫

加瀬彦市

渡邊悦次郎

金井定四郎

伊内作大夫

高木專五郎

齋藤榮三郎

萩原五郎次

萩原五郎次

荻原又六

齋藤榮三郎

萩原五郎次

萩原五郎次

同假役

松永半六

齋藤榮三郎

萩原五郎次

萩原五郎次

加藤此八

金井新作

萩原五郎次

萩原五郎次

御使之者

長田七右衛門

岩崎傳兵衛

菊地傳藏

松永林平

黒鉄之者

高橋惣三郎

中嶋六兵衛

山崎喜左衛門

小倉左大夫

飯田鐵藏

山崎喜左衛門

小倉左大夫

御徒頭

長坂血鎗九郎

長井五右衛門組御徒組頭
傍嶋太郎右衛門

長井五右衛門組御徒

長坂血鎗九郎組御徒組頭
三嶋七郎次

雜賀三郎右衛門

松岡文三郎

井上治右衛門

平尾清五郎

小川重兵衛

中野彦五郎

仲田助十郎

關戸倉之助

傍嶋三十郎

乙竹金之助

猪飼昌次郎

武嶋嚴藏

松村立助

桑田一九郎

長坂血鎗九郎組御徒
伊藤仙右衛門

久田見又七郎

古橋忠三郎

岩田傳左衛門

藤田忠兵衛

鈴木專之助

田口彌兵衛

龜里鍵次郎

渥美權四郎	池田正助	川目彦大夫
成瀬吉藏	内田利三郎	
<small>御納戸頭</small> 田澤政次郎	<small>同組頭</small> 伴野權次	<small>御納戸</small> 櫻井庄太郎
鈴木熊藏	鈴木清兵衛	早川善左衛門
<small>同同心</small> 黒川善藏	田中金藏	嶋田喜兵衛
大村信吉	坪井九郎兵衛	須田庄兵衛
山中庄藏	村本鐵平	伊藤三四郎
<small>小十人頭</small> 鹽崎雄次郎	<small>同人組與頭</small> 山田又藏	岡田新五左衛門
<small>同人組</small> 駒井但馬守	堀内斧太郎	中井富五郎
水上十次郎	荒川勝太郎	羽田彦助
葉山金次郎	吉川三郎右衛門	米倉内藏助
松尾傳次郎		西村鐵四郎
安井藤三郎		
<small>御勘定吟味役</small> 篠山十兵衛	<small>同吟味方改役</small> 渡邊三郎助	
<small>御普請役元格</small> 小田伊三郎		

奥御右筆組頭 秋山内記	奥御右筆 青木忠左衛門	布施藏之丞
御用掛助 田中龍之助	<small>表御右筆</small> 新村登八郎	宇多松次郎
江戸掛 山田八郎右衛門		
中嶋民次郎		
<small>寄合醫師</small> 土岐長元	船橋宗迪	<small>御番外科</small> 佐藤景南
<small>表坊主</small> 久庵	林雪	

日光御法會に付登山之面々宿坊割

東山教城院	近衛左大臣殿	中山觀音院	青蓮院御門跡
<small>御馳走人</small> 東山唯心院 細川和泉守	<small>御馳走人</small> 大貫治右衛門	<small>御幸町入江所喜兵衛</small> 京極長門守	<small>御馳走人</small> 山田常右衛門
東山日增院	梶井御門跡	東山禪智院	六條前大納言
<small>御馳走人</small> 鉢石町源藏 毛利甲斐守	<small>御賄</small> 佐藤忠右衛門	<small>御賄</small> 杉庄兵衛	
東山護光院	甘露寺大納言	東山櫻本院	日野中納言
<small>御賄</small> 平岡彦兵衛	徳大寺中納言		飛鳥井宰相

徳川禮典附録 卷十三

佛岩養源院

御賄 四辻中納言
岸本武入

東山藤本院

御賄 萬里小路左大辨宰相
大貫治右衛門

南谷醍醐坊

御賄 梅溪中將
山田常右衛門

南谷專光坊

御賄 綾小路中將
佐藤忠右衛門

西山智觀院

御賄 持明院少將
杉庄兵衛

東山城秀坊

武者小路少將

西山正範坊

橋本少將

西山觀德坊

豐岡右兵衛佐

西山圓泉坊

園池近江權介

東山淨久坊

八條近江權守

善如寺谷實藏坊

高野刑部大輔

南谷行實坊

勸修寺權右中辨

佛岩正住坊

中國上總權介

西山什光坊

清岡大學頭

西山唯教坊

細川差次藏人

西谷不動坊

北小路江藏人

地 下

西谷妙圓坊

大官外務記

西谷正學坊

出納

西山櫻秀坊

少少少內史記

佛岩林教坊

治部官人
蕃部官人
樂部官人
正官省

佛岩圓乘坊

主御殿
同史官
右官
召使
副使

佛岩通乘坊

駕儀
威儀
從師
寺家
承仕
綱掌

佛岩正定坊

左官兼左藏省
大藏省兼左藏省
左官兼左藏省
左右馬寮
主水司
掃部寮
圖書寮
仕人寮
衛士部
使部

善如寺谷順教坊

鍵所取

四軒町壹軒

大佛師

下本町壹軒

繪所

板挽町

樂人

四軒町之內拾六軒

大佛師

袋町

樂人

大本町

苦薩人

四軒町之內五軒

大經師

原町

江戶樂人

西山永南坊

江戶樂人

中大工町二軒

江戶樂人

武家御用掛之面々

東山南照院

御名代 井伊掃部頭

中山實教院

大納言御名代 榊原遠江守

中山光樹院

惣奉行 牧野備前守

東山青進院

寺社奉行 阿部備中守

東山安居院	松平右京亮	西谷圓融坊	大目付 伊藤河内守
西山教光坊	御作奉行 村垣淡路守	南谷照高院	勤番 奥平大膳大夫
佛岩惠乘院	土岐山城守	佛岩法門院	朽木土佐守
西谷無量院	山中火之番 御祭禮奉行兼 鳥居丹波守	佛岩華藏院	稻垣信濃守
東山祐南坊	高家 中條河内守	東山日城院	戸田備後守
佛岩龍觀坊	大澤右京大夫	東山道福坊	中奥御小性 蜷川大和守
鉢石町觀音寺	蒔田河内守	鉢石町勘右衛門	白須和泉守
御幸町龍藏寺	松平内匠頭	中鉢石町太郎助	石川大隅守
下鉢石町定右衛門	松平主計頭	下鉢石町金右衛門	溝口備後守
鉢石町久兵衛	松平但馬守	善如寺谷大輪坊	御目付 初鹿野傳右衛門
善如寺谷連性坊	高井山城守	善如寺谷理宣坊	荒川常次郎
西谷慶住坊	富永三郎右衛門	南谷妙珍坊	御徒目付 御小人目付
御幸町安兵衛	御徒頭 長井五右衛門	御幸町之内	同人組御徒

御幸町三十郎	長坂血鎗九郎	御幸町之内	同人組御徒
御幸町友七	小十人頭 駒井但馬守	御幸町之内	小十人組
南谷常福坊	御納戸頭 田澤政次郎	善如寺谷光禪坊	同組頭 伴野權次
下本町之内	御納戸	西谷碩善坊	御勘定吟味役 篠山十兵衛
東山杉本坊	奥御右筆組頭 秋山内記	板挽町淨光坊	寄合醫師 土岐長元 船橋宗迪
四軒町齊藤右兵衛	御番外科 佐藤景南	東山永觀坊	奥御右筆 青木忠左衛門 布施藏之丞
東山妙又坊	表御右筆 新村登八郎 宇多松次郎 中嶋民次郎	西谷櫻正坊	御勘定組頭 芝與市右衛門 守屋權之丞
善如寺谷又月坊	御代官 大貫治右衛門	南谷禪教坊	山田常右衛門
佛岩常觀坊	杉庄兵衛	稻荷町北村善六	佐藤忠右衛門
稻荷町鈴木松藏	平岡彦兵衛	稻荷町根本忠次	竹内新八郎
稻荷町之内	岸本武八	佛岩龍圓坊	漆奉行 村田幾三郎

四軒町 吾妻幾右衛門	御勘定吟味方改役 渡邊三郎助	西谷城祐坊	御勘定 西村鐵四郎
四軒町伴筑後助	成瀬久右衛門	中本町星野秀八	川勝來太郎
四軒町黒川美作介	河合内藏助	板挽町 大手六右衛門	山田益彌
原町山縣傳兵衛	菅谷彌五郎	板挽町源左衛門	久保田吉次郎
本町大竹與左衛門	伊藤斧右衛門	中大工町阿部常仙	中村繼次郎
原町仁兵衛	同出役 大竹庄九郎	中本町小林太助	御大工頭 和田源助
原町徳助	御作事下奉行 三輪善平	東山堯心坊	表坊主 久林庵
上使始登山之面々			
東山淨土院	上使 御側衆	佛岩鏡徳坊	御臺様御代拜 御用
佛岩祐源坊	御簾中様御代拜 御用	四軒町新井外記	淑姫君様御代拜 御用
下鉢石町鹽澤内藏	峯姫君様御代拜 御用	中鉢石町梅原兵庫	一橋大納言殿 名
上大工町古嶋日向守名	紀伊中納言殿 御用	蓮花石町 古嶋佐渡守	尾張中納言殿 名

久次良村猿橋甲斐守名	水戸宰相殿 御代	御幸町山中療病院	德川右衛門督殿 名
中鉢石町梅原兵庫	德川民部卿殿 御代	御幸町善六	德川式部卿殿 名
上本町山口忠左衛門名	德川太眞殿 御代	久次良村江端近江守名	水戸中將殿 御代
御幸町半兵衛	右衛門督殿御簾中 御代	御幸町善右衛門	貞章院殿 御代

將軍德川家禮典附錄 卷之十三 終

昭和十七年七月二十日印刷
昭和十七年七月二十五日發行

德川禮典錄 (全三册 附圖一帙)

全三册附圖共 定價參拾圓

編纂者

尾張德川黎明會

發行所

東京市豐島區目白町四丁目四十二番地
尾張德川黎明會

發行者

尾張德川黎明會代表者
鈴木信吉

印刷所

大垣市南高橋町
西濃印刷株式會社

印刷者

大垣市南高橋町
西濃印刷株式會社代表者
河田貞次郎

發行所

財團法人

尾張德川黎明會

東京市豐島區目白町四丁目四十二番地
電話大塚(86)四一〇五番
振替口座 東京四六二二五番

社會式株給配版出本日 元給配

購入

3282



